

インフルエンザワクチンについての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

1) インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる呼吸器疾患で、伝染力が強く、また症状が普通の風邪に較べて格段に重いのが特徴です。インフルエンザウイルスは、インフルエンザにかかった人の咳やくしゃみにより周囲に広がります。空気中に浮かんでいるウイルスを吸い込んだり、手に着いたウイルスが口から入って周りの人に感染します。感染後 1～4 日の間に突然の悪寒や発熱で発症し、強い倦怠感、咳、くしゃみ、のどの痛み、頭痛、筋肉痛などの症状が数日から1週間続きます。

重い肺炎を合併することがあり、心臓や肺などに基礎疾患がある場合は生命をおびやかす事態になることがあります。まれに小児の重篤な脳症を引き起こすことがあります。

2) ワクチンの効果

インフルエンザワクチンは、麻疹ワクチンなどと違い、ほぼ完全に感染を防ぐほどの効果はありません。つまり、ワクチンを接種してもインフルエンザにかかる人が少なからずいます。しかし、たとえかかっても多くの場合軽くすみます。

3) ワクチンの特徴

インフルエンザウイルスから抗原を分離精製した不活化ワクチンです。

4) 接種方法

接種量は 6 か月から 3 歳未満では 0.25ml、それ以降は 0.5ml です。成人や年長児では 1 回のワクチンで効果が得られますが、13 歳未満の小児では 2 回の接種が必要です。

年齢	量	方法	回数	間隔
6 か月以上 3 歳未満	0.25mL	皮下注	2	2～4 週
3 歳以上 13 歳未満	0.5 mL	皮下注	2	2～4 週
13 歳以上	0.5 mL	皮下注	1～2	1～4 週 ^{注 1)}

注 1: 2 回接種する場合の間隔

5) 副反応

発熱が 1～3%、注射部位の発赤や腫脹が 10～20%に見られます。ごくまれにショックや脳脊髄炎が見られます(100 万人に 1 人以下)。

6) 接種後の注意

ワクチン接種後 30 分間は、院内で様子を観察してください。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

7) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。

8) その他

他のワクチンを続けて接種するときは6日間以上の間隔をあけて下さい。